



日本遺産を活用しよう！ ～北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～



■初の単独型日本遺産

今年2月4日、小樽市が国に申請していた日本遺産ストーリー「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」が、文化庁に認定され、念願だった単独型の日本遺産ストーリーを手に入れる事ができました。

日本遺産 (Japan Heritage) は平成27年から始まった制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。およそ、どの街にも有形・無形の文化財群がありますが、地域が主体となつて整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図ることを目的としており、日本の文化遺産を保護する制度の一つに位置付けられています。

既に小樽市には「北前船」と「炭鉄港」の2つの日本遺産がありますが、これはシリアル型と呼ばれるもので、複数の自治体にまたがつてストーリーが展開されています。今回、認定されたのは単独型と言われ、小樽市内だけでストーリーが完結するものとなっており、日本の近代化を支えた北日本随一の都市だった小樽が、「民の力」で

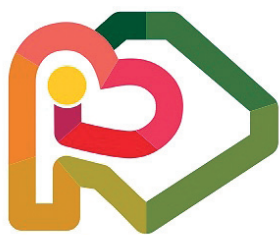
まちづくりをしてきた歴史がストーリーとなっています。

■活用による地域活性化

日本遺産は、文化財保護に加え、地域の歴史や文化を活かした観光振興や地域活性化が大きな目的であることから、観光業や関連ビジネスを通じて経済的な利益を生み出すことが大いに期待されています。

例えば、日本遺産ストーリーを活用した観光プログラムやイベントとして、ストーリーの構成文化財となっている歴史的建造物を巡るガイド付きツアーや伝統工芸、郷土料理を体験できるワークショップがあります。

さらに、歴史的建造物を活かした宿泊施設やカフェの運営、小樽の歴史や文化をテーマにした商品開発・販売などが考えられます。



北海道の『心臓』と呼ばれたまち

OTARU

(図1) 北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽ロゴマーク